

平成21年度「基礎・基本」定着度調査について

1 調査の概要

(1) 調査の趣旨・目的

基礎的・基本的な内容及びそれらを活用する力について、県内の全公立小・中学校を対象に調査を行い、客観的なデータに基づき定着度の状況を把握することにより、各学校等での指導法改善の取組を支援し、児童生徒の基礎学力の向上を図る。

(2) 調査の重点

昨年度に引き続き、選択式の設問に加え、知識・技能の活用に関する記述式の設問などを一定数出題した上で、昨年度と同様の難易度とし、目標平均通過率を70%に設定した。

(3) 調査の実施日

平成22年1月14日(木)、15日(金)

(4) 対象学年, 対象教科

小学校第5学年(国語, 社会, 算数, 理科)

中学校第1学年(国語, 社会, 数学, 理科, 英語)

中学校第2学年(国語, 社会, 数学, 理科, 英語)

2 結果の概要

○ 各教科の傾向としては、個別の分野では一定の改善も見られたものの、全体的には、昨年度同様に下記の状況が継続している。
・ 小学校段階の通過率は概ね安定しているが、中学校段階では定着が不十分な教科、学年がある。
・ 基本的な知識・技能については定着が見られるが、それらを活用する力を問う問題(社会的な思考を問う問題, 数学の文章問題, 英作文など)への対応が不十分である。
○ 全14調査中、目標の平均通過率を達成したものが5調査、達成と同視できるものが2調査であり、さらなる改善の必要がある。

3 各教科の平均通過率等

		H21	H20
国 語	小5	73.3	76.8
	中1	72.4	63.7
	中2	73.7	66.1

- 「聞く」「書く」「読む」「言語事項」の各領域等において、すべての学年で基本的な知識・技能が概ね定着している。
- 具体的な「言語活動」場面を想定し、思考を整理して表現する力の定着を図る必要がある。

		H21	H20
社 会	小5	69.1	72.0
	中1	63.3	65.6
	中2	58.9	62.6

- 小学校は概ね定着しているが、中学校については課題がある。
- 資料を効果的に活用し、社会的事象の特色や関連を解釈・説明する力に課題があり、思考力、判断力、表現力を育てる取組が必要である。

		H21	H20
算 数	小5	66.0	73.9
	中1	69.7	68.0
	中2	63.2	65.7

- 簡単な四則計算や図形の性質に関する問題では成果がみられるが、事象の本質的理解が不十分な面があり、小5では、同内容についての出題方法を変えた設問などで通過率が低下した。
- 数量の規則性を文字で表すことや反比例の概念、文章問題の理解に課題があり、数学的な見方や考え方を育てる必要がある。

		H21	H20
理 科	小5	73.6	73.7
	中1	57.0	67.3
	中2	59.5	62.6

- 移行期に伴う新内容について、小学校では概ね定着しているが、中1では事象の本質的な理解が不足している。
- 記述による説明、作図、グラフの活用等の習熟とともに、学習内容と生活の中の事象とを関連付け、実感を伴った理解を図る必要がある。

		H21	H20
英 語	小5	-	-
	中1	70.0	72.5
	中2	62.5	60.0

- 「聞く」「読む」領域において、概要・要点の把握等の理解する力は概ね定着している。
- 場面に応じて適切に書く力が不足している。音声による文構造等の練習を十分に行った上で、文字による正確な表現の定着を図る必要がある。

4 調査結果の活用(今後の対応)

今後、本調査の更に詳細な分析結果や指導法改善策をまとめた資料を平成21年度中に作成し、県内の全小中学校に配布するとともに、各段階の教職員研修等で集中的な活用を行うことなどにより、県下全体での課題認識の共有と取組を推進する。

また、一部に改善はみられたものの、昨年度からの課題が依然多くの点で継続している事態を踏まえ、平成21年度中に、本県独自教材「鹿児島ベーシック」(中学校用)の緊急改訂を行い、各学校における調査結果への対応を積極的に支援する。